

「白山市地域公共交通計画（案）」に対するご意見と市の考え方について

募集期間：令和7年1月8日(水)～1月21日(火)

結 果：10名の方から12件の意見

パブリックコメントに寄せられた計画案へのご意見・ご要望と、それに対する市の考え方は以下のとおりです。

ご意見・ご要望	市の考え方
利便性の実現。コミュニティバス中心に公共交通の駅（停留所）は自宅から遠くても200～300メートルに1か所としてほしい。夏冬など500メートルはいかにもつらいです。関係者ヒアリングに（健康のために歩く習慣づけも必要）とありましたが、高齢者にとって、それは少し違う気がします。	ストレスなく歩ける距離は、年齢や健康状態により異なることから、できる限り公共交通の駅（停留所）が近距離にあることが理想的であることは認識しておりますが、本市では交通空白の捉え方として、国の示す「地方では駅から1000m以上、バス停から500m以上」を一定の距離として用いております。 また、一般的に、公共交通を利用することは身体を動かす機会が増えることから、健康維持にとって非常に有用であると考えられておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。
石川線のみなし上下分離より、地域の財産でもある鉄道が存続されることは、大変ありがたいことであります。ただし、北陸鉄道の要望・施策に単にお金を支出するのではなく、駅の整備等については、地域の街づくりやコミュニティ・観光等に密接に係ることであり、地元（町会や地域団体等）との意見交換の場を是非設けていただきたい。 また我々石川線沿線市民も、通学・通勤になくてはならない公共交通手段であることを自覚し、人口減少であっても存続していける施策等を、事業者・市・地域団体・利用者が共に考えていけるような、気運の醸成を図っていくことが重要であると考えます。 公共交通については、市民生活に密接に係わる問題であり、定期的に地域との対話を行う場を設けることを提案・要望します。	必要な情報提供や意見交換、地域の要望などについて、沿線自治体や北陸鉄道と協議してまいりたいと考えております。

ご意見・ご要望	市の考え方
従来のコミュニティバスを生かしたものでできればと考えました。 1 ルートの利用率を鑑みてルートの再構築利用率が低いからと単純ではなく、何故なのかを分析する。低いルートこそ宝の山があると思います。 2 運休日：日曜日、月から土曜日の祝日、振替休日、1月1日から1月3日を取りやめる。毎日運行していることをアピールする。 3 アンケートの実施 声を聴き探る 4 弁当付きの小旅行の企画 白山ろく地域及び白山手取川ユネスコ世界ジオパークへのお誘い入浴等も実施する。 5 貸し切りの実施 町内会等親睦会等で宴席場所への貸し切りで送迎を実施し、バス停のみではなく公民館等への集合場所へ送迎する。 6 少し大きな話しかもと周囲はびっくり☆冬のオリンピックの招致を目指す。	1 本計画では、コミュニティバスの継続的な運行のため、乗降調査等の利用実態を踏まえ、また安全運行及び乗務員の労働環境改善に努めながら、地域の特性やニーズを踏まえルート・ダイヤを見直すこととしております。 2 運休日のない運行は、利便性の向上が図られる一方で、運行経費の増大やバス運転手不足などの課題もありますので、実現は難しいと考えております。 3 ルート・ダイヤの見直しの参考とするために乗降調査を毎年実施し、利用実態の把握に努めてまいります。 4～6 貴重なご意見として承ります。
平松町地内のコミュニティバス南ルートで停留所が林中コミュニティセンターから平松の間が長くて林中子供園周りの住宅の人が利用しにくくなっています。 高齢者の運転免許証返納が進む中平松バス停まで歩くのは無理です。 子供園まわりにバス停設置をお願いします。	本市では、コミュニティバスは路線バスを補完する役割を持った運行としています。 林中こども園周辺につきましては、コミュニティバスの「林中コミュニティセンター」バス停より近距離に路線バス三反田線の「林中」バス停及び川北線の「剣崎」バス停がありますので、路線バスの利用につきましてもご検討ください。

ご意見・ご要望	市の考え方
東森島をルートの中に入れてもらえませんか。 バスの運行を増やして欲しいです。	計画では、コミュニティバスの継続的な運行のため、乗降調査等の利用実態を踏まえ、また安全運行及び乗務員の労働環境改善に努めながら、地域の特性やニーズを踏まえルート・ダイヤを見直すこととしております。 運転手不足という大きな課題もあることから、ご希望のダイヤ・ルートなど、全てにお応えすることは困難な状況ではありますが、可能な限り利用実態に即したルート・ダイヤの設定に努めてまいりたいと考えております。
金沢市内路線バスは運行状況が見える化されておりバスがいつごろ来るか把握できる。 白山バスはどこを走っているかわからない。めぐーも同様である。 野々市市が運行しているのっティは野々市市と金沢工業大学でリアルタイムにどこを走っているかわかる。	いただいたご意見については、今後の公共交通の利用しやすさ・わかりやすさ向上の参考とさせていただき、検討してまいります。
コミュニティバスめぐーのつるぎ病院線の支払いでIcaが使えるようになってほしい。	コミュニティバスで北陸鉄道グループの交通系 IC カード「Ica(アイカ)」を利用可能とすることは、コミュニティバスの利便性向上につながりますが、一方で、費用的及び技術的に大きな課題があります。 いただいたご意見については、今後のコミュニティバスの利便性向上の参考とさせていただきます。
ライドシェアの早期導入を求める。コミュニティバスの維持費が明示されていないが、早々に維持が困難な状況に陥ると推測されることから、民間資金導入が必要であると考えられる。	本市を含む金沢交通圏におきましては、日本版ライドシェア（「自家用車活用事業」）が令和6年6月から複数のタクシー事業者により運行が開始されています。
3月頃配布のめぐーの時刻表の冊子について、 - IRいしかわ鉄道の西金沢時刻表を追加してほしい。 - 北鉄石川線の新西金沢駅着時刻を追加してほしい。（石川線の陽羽里駅発の隣）	令和7年3月15日改正予定の総合時刻表にIRいしかわ鉄道西金沢駅及び北陸鉄道新西金沢駅の発車時刻を掲載します。

ご意見・ご要望	市の考え方
市民アンケートにおける交通機関を『利用しない』理由についての考察がない。 特に、石川線について『みなし上下分離方式』により自治体が負担する以上は相応の分析が不可欠である。分析が不足していることにより、鉄道事業再構築実施計画における『日中時間帯の増便による昼間時間帯の利便性向上』といった、対象が不明な内容になるのではないかと。	アンケート結果のまとめに記載のとおり、公共交通機関を「利用しない」理由としては、移動の大部分を自動車に依存していることが大きな要因であると考えられます。 また、運行本数の増加にかかる要望も多く寄せられており、利便性の向上も重要な課題であると認識しております。 石川線に関しましては、石川中央都市圏の枠組の中で、利用に関する分析の実施について、働きかけてまいりたいと考えております。
白山市の公共交通の現状を知ることができ、興味深く思いました。公共交通の運用実績は悪化の一途にあると感じていましたが、コロナ禍での低下後もゆっくりではあるが利用増加が認められ、施策の効果があると感じました。 一方で、公共交通のアンケートにおいて、自治体の管理が強まると思われる、地区内の移動手段(めぐー等)で、不満の割合が高くなっていると思いました。各地区の移動特性にあった改善策が見つかるとうれしいと思います。 地区内の移動について、高齢者が計画の中心となるかと思えます。子育て世代としては、子ども単独での通学や習い事、公共施設への移動に活用できる状態であると親子とも大変嬉しく思います。きっと他世代にも良い反響もあると思います。既存の通学バス等を多世代が利用できるものにするなど、運転手不足の中でも本数の維持、利便性向上すれば良いかと個人的に考えます。	コミュニティバスは、限られた資源の中で、路線バスを補完しながら、各地域の生活に密着し、公共施設や医療機関、学校、主な商業施設などを結んで運行しています。 地域からの要望などを踏まえ、地域コミュニティ組織などとの対話や連携を図りながら、引続き地域における移動の足の確保に努めてまいりたいと考えております。